

令和２年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 統括事項

ア 病院事業全体としての状況

令和２年度の病院事業は、急性期医療から慢性期医療、在宅医療を提供し、各地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。全国的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に対しては、感染症病床を有する総合水沢病院はもとより、前沢診療所及び衣川診療所においては一般患者向けにオンライン診療を導入するなど、医療局全体でその対応に当たりました。

まごころ病院においては、訪問診療、訪問看護の在宅医療の継続に努めるとともに、医療提供体制を見直しながら新たに５種の加算を取得し、収入の確保に努めました。

医師数については、前年度から１人減の２５人となりました。施設毎の医師数は総合水沢病院を除く施設では増減がありませんが、総合水沢病院では、常勤医師が前年度から３人減少し、医師不足がより深刻な状況となっております。これまで以上に医師招へい及び医師奨学生の義務履行に力を注ぎ、経営の改善・安定化を図ります。

新市立病院建設については、奥州金ケ崎地域医療介護計画で示された市立医療機関のあり方にに基づき次期奥州市立病院・診療所改革プランを策定し、市民が安心して生活できるよう適切な医療体制の整備に努めてまいります。

経営状況については、入院患者数は３１,９４０人（前年度比９,２２９人減）、外来患者数（訪問看護を除く。）は１１２,７２３人（前年度比２２,２３５人減）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で８７.５人（前年度１１２.５人）、外来４６７.７人（前年度５６２.３人）となりました。一般病床利用率は４１.３％で、前年度の５３.０％から１１.７ポイントの減となっています。

医療局としての収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が２,４９５,９７６,７５２円、医業外収益が１,４７９,０１５,０２３円、訪問看護事業収益が６６,３３５,１３６円、訪問看護事業外収益が７２４,５２３円、このほか特別利益が１,４３１,６５０円で、病院事業収益総計は４,０４３,４８３,０８４円となりました。

支出については、医業費用が４,２１５,１９６,８９９円、医業外費用については１６４,００２,９１８円、訪問看護事業費用が８８,２６６,５８８円、このほか特別損失が３,７７５,６７５円で、病院事業費用総額は４,４７１,２４２,０８０円となりました。

この結果、医業収支で１,７１９,２２０,１４７円の損失、経常収支で４２５,４１４,９７１円の損失となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は４２７,７５８,９９６円の損失となりました。

また、資本的収入及び支出（税込）については、収入は１９６,７８８,０００円、支出は２７４,１３５,５７０円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は前年度と比較し、常勤医師が3人減の11人となりました。会計年度医師2人を合わせると合計で13人となり、全体で1人減となっています。入院患者数は19,023人で前年度と比較して7,770人(29.0%)の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は46,275人で前年度と比較して13,551人(22.7%)の減となりました。訪問看護は、利用者数が5,034人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が1,463,074,833円、医業外収益が879,962,346円、訪問看護事業収益が46,069,612円、このほか特別利益が586,567円で、収益総額は2,389,693,358円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が2,555,448,871円、医業外費用が92,186,217円、訪問看護事業費用が57,837,179円、このほか特別損失が2,489,479円で、支出総額は2,707,961,746円となりました。

この結果、医業収支では1,092,374,038円の損失、経常収支では316,365,476円の損失となり、特別損益を含めた純損益では318,268,388円の純損失となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度と同数の常勤医師8人となっています。入院患者数は11,338人で前年度と比較して1,141人(9.1%)の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は43,498人で前年度と比較して6,197人(12.5%)の減となりました。訪問看護は、利用者数が1,646人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が750,382,682円、医業外収益が230,940,618円、訪問看護事業収益が9,899,646円、訪問看護事業外収益が10,725円、このほか特別利益が622,352円で、収益総額は991,856,023円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が1,030,204,138円、医業外費用が39,053,157円、訪問看護事業費用が11,980,441円、このほか特別損失が472,252円で、支出総額は1,081,709,988円となりました。

この結果、医業収支では279,821,456円の損失、経常収支では90,004,065円の損失となり、特別損益を含めた純損益では89,853,965円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師1人となっています。外来診療再開から5年目を迎え、外来患者数(訪問看護を除く。)は7,104人で前年度と比較して295人(4.0%)の減となりました。なお、入院については引き続き休止しています。訪問看護は、利用者数が940人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が66,873,760円、医業外収益が130,725,142

円、訪問看護事業収益が 10,365,878 円、訪問看護事業外収益が 713,798 円、このほか特別利益が 207,956 円で、収益総額は 208,886,534 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 187,005,614 円、医業外費用が 15,960,980 円、訪問看護事業費用が 18,448,968 円、このほか特別損失が 444,040 円で、支出総額は 221,859,602 円となりました。

この結果、医業収支では 120,131,854 円の損失、経常収支では 12,736,984 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 12,973,068 円の純損失となりました。

（エ）衣川診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人、会計年度医師 1 人の合計 2 人となっています。入院患者数は 1,579 人で前年度と比較して 318 人（16.8%）の減となり、外来患者数は 10,476 人で前年度と比較して 1,565 人（13.0%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 158,779,544 円、医業外収益が 151,477,011 円で、収益総額は 310,256,555 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 306,577,984 円、医業外費用が 12,173,600 円、このほか特別損失が 347,932 円で、支出総額は 319,099,516 円となりました。

この結果、医業収支では 147,798,440 円の損失、経常収支では 8,495,029 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 8,842,961 円の純損失となりました。

（オ）衣川歯科診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数は 5,370 人で前年度と比較して 627 人（10.5%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 53,581,779 円、医業外収益が 36,360,263 円、このほか特別利益が 14,775 円で、収益総額は 89,956,817 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 84,836,935 円、医業外費用が 2,918,524 円、このほか特別損失が 21,972 円で、支出総額は 87,777,431 円となりました。

この結果、医業収支では 31,255,156 円の損失、経常収支では 2,186,583 円の利益となり、純損益では 2,179,386 円の純利益となりました。